

2025年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年5月14日

上場会社名 東和ハイシステム株式会社 上場取引所 東
コード番号 4172 URL <https://www.towa-hi-sys.co.jp/>
代表者（役職名） 取締役社長執行役員（氏名） 飯塚 正也
問合せ先責任者（役職名） 経理部部长（氏名） 児玉 祐輔 (TEL) 086-243-3003
半期報告書提出予定日 2025年5月14日 配当支払開始予定日 2025年5月27日
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年9月期第2四半期（中間期）の業績（2024年10月1日～2025年3月31日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期中間期	1,236	12.4	345	32.0	410	5.3	277	4.4
2024年9月期中間期	1,100	△14.2	261	△21.6	389	△7.6	265	△9.2

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益	売上高 営業利益率	売上高 経常利益率	売上高 当期純利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年9月期中間期	124.48	—	27.9	33.2	22.4
2024年9月期中間期	119.24	—	23.8	35.4	24.1

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年9月期中間期	4,521	4,123	91.2	1,850.80
2024年9月期	4,375	3,934	89.9	1,765.81

（参考）自己資本 2025年9月期第中間期 4,123百万円 2024年9月期 3,934百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年9月期	—	30.00	—	58.00	88.00
2025年9月期	—	44.00			
2025年9月期（予想）			—	44.00	88.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. （1）2025年9月期の業績予想（2024年10月1日～2025年9月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,220	5.0	486	15.1	600	2.1	410	2.0	184.02

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

（2）経営指標

	株価収益率 (PER)	株価純資産倍率 (PBR)	自己資本利益率 (ROE)
	倍	倍	%
2025年9月期（予想）	11.8	1.2	10.2
2024年9月期	10.3	1.1	10.5

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年9月期中間期	2,228,000株	2024年9月期	2,228,000株
-------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2025年9月期中間期	76株	2024年9月期	76株
-------------	-----	----------	-----

③ 期中平均株式数（中間期）

2025年9月期中間期	2,227,924株	2024年9月期中間期	2,227,951株
-------------	------------	-------------	------------

(4) 3. (2) 経営指標の計算方法については以下の通りです。

PERは株価終値を1株当たり純利益(2025年9月期は業績予想数値を使用)で割って計算しております。

PBRは株価終値を1株当たり純資産で割って計算しております。

ROEは純利益(2025年9月期は業績予想数値を使用)を期中平均の純資産で割って計算しております。

2025年9月期(予想)の株価は2025年3月31日終値の2,190円で計算しております。

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間貸借対照表	5
(2) 中間損益計算書	7
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や好調なインバウンド需要によって、回復基調にはあるものの、2025年1月に発足した第2次トランプ米政権の関税政策の影響によって、経済や物価動向の不確実性が高まっており、予断を許さない状況が続いております。

そのような中、歯科業界においては、年々増え続ける国の医療費に対する歯科の割合が、過去と比べると大幅な減少傾向にあると同時に、急速な医療DX推進に対応できないなどを理由に長く地域医療を支えてきた歯科医師の廃業が急増、歯科医療サービスが滞る地域が増加するなど極めて深刻な状況下にあり、歯科衛生士をはじめとした医療従事者の不足や超高齢化社会、経費増大といった社会問題を踏まえると歯科業界の未来を憂えざるを得ません。

一方で、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診制度）開始に合わせて、NHKや民放でも歯周病がもたらす糖尿病や動脈硬化、認知症など全身疾患への影響が伝えられ、「治療から予防へ」国民の意識が変わりつつある今、歯科業界が大きな変革期に差し掛かっていることは確かな事実と言えます。

そこで当社は、2025年1月 地元メディアや歯科医師会と協賛、歯周病について分かりやすく説明した小児向け絵本「すごいよ！みんなの歯」第3版の発行に着手、また、2025年3月 BSテレ東「地球大調査～SDGs・ESGが変えるミライ～」に2回連続で出演、「治療から予防へ」を実践する歯科医院を番組で紹介するなどの啓蒙活動に注力して参りました。併せて、小児から通院が難しくなったご高齢の患者さままで一生のかかりつけ歯科医として、口腔ケアによる重症化予防への取り組みを支援、医療DX推進へ助成金・補助金を活用した支援ソフトの販売を強化・継続すると共に主力商品である「AI・音声電子カルテ統合システム AI-Voice」「AI・音声歯周病検査」「AI・音声サブカルテ」を「歯科DX 三種の神器」と銘を打って拡販して参りました。

このような取り組みの結果、当中間累計期間の業績は、売上高1,236,842千円(前期比12.4%増)、営業利益345,147千円(前期比32.0%増)、経常利益410,472千円(前期比5.3%増)、純利益277,377千円(前期比4.4%増)、連続での増収増益となりました。

さらに自己資本比率91.2%、売上高経常利益率33.2%、売上高純利益率22.4%と最高水準の経営指標となり、2025年9月期予想ベースで PER 11.8倍、PBR 1.2倍、ROE 10.2%となっております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当中間会計期間末における総資産は4,521,575千円となり、前事業年度末と比較して145,859千円増加いたしました。

a. 流動資産

流動資産は2,261,391千円となり、前事業年度末より277,504千円増加いたしました。主な内訳は、現金及び預金の減少84,464千円と、売掛金の増加140,441千円、預け金の増加281,886千円であります。

b. 固定資産

固定資産は2,260,183千円となり、前事業年度末より131,644千円減少いたしました。主な内訳は、ソフトウェアの減少23,017千円、投資有価証券の減少81,594千円であります。

(負債)

当中間会計期間末における負債は398,137千円となり、前事業年度末と比較して43,482千円減少いたしました。

a. 流動負債

流動負債は344,764千円となり、前事業年度末より42,632千円減少いたしました。主な内訳は、未払金の減少19,106千円であります。

b. 固定負債

固定負債は53,372千円となり、前事業年度末に比べて大きな増減はありませんでした。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産は4,123,437千円となり、前事業年度末と比較して189,341千円増加いたしました。前事業年度に係る配当金が129,219千円生じた一方、中間純利益を277,337千円計上したことにより利益剰余金が148,118千円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は1,802,540千円となり、前事業年度末より197,422千円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって得られた資金は131,159千円(前年同期は46,761千円の収入)となりました。これは主として、税引前中間純利益の獲得による410,472千円の収入、投資有価証券売却益の計上42,002千円、売上債権の増加140,441千円があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって得られた資金は195,419千円(前年同期は18,629千円の支出)となりました。これは主として、投資有価証券の売却による収入607,235千円、投資有価証券の取得による支出424,358千円があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって支払った資金は129,157千円(前年同期は111,368千円の支出)となりました。これは主として、配当金129,157千円の支出があったことによります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年9月期の業績予想につきましては、2024年11月13日に「2024年9月期決算短信[日本基準]（非連結）」にて公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

今、歯科業界は、いわゆる「2025年問題」で昭和22～24年生まれの団塊世代が75歳以上の後期高齢者になり、歯科医院への来院患者が大きく減少すると予想されています。併せて、12歳児の永久歯の虫歯の数が昭和59年には平均4.75本だったものが、現在では0.53本へと大きく減少しています。一方、厚生労働省の調査では、15歳以上の47.9%が歯周病と発信されており、歯周病を起因とする糖尿病、認知症、動脈硬化など全身疾患への影響を抑制して、国の医療費削減、健康寿命を延伸する為には、定期的な歯周病の治療と予防が重要です。即ち、小児から通院が難しくなったご高齢の患者さままで一生のかかりつけ歯科医として、「治療から予防へ」口腔機能管理型の医院経営へ革新していく大きな転換期を迎えていると言えるのです。

だからこそ当社は、2025年4月7日 新たに「AI・音声電子カルテ統合システム AI-Voice Rev.11」を誕生させ、歯科DX補助金ソフト対応や歯科DX見える化ソフトを標準搭載、また、歯周病検査結果をもとに病名を瞬時に判定支援する「Perio Judge」など様々な新機能を盛り込み、大幅時間短縮・生産性向上・業務効率化によって、さらに進化した医療DXを推し進め、歯科医院を変化・成長へと導くことを可能とした画期的な商品を開発致しました。

併せて4月12日～13日 当社独自で「東和デンタルフェアin大阪」を開催、新商品である「AI・音声電子カルテ統合システム AI-Voice Rev.11」と「AI・音声歯周病検査」「AI・音声サブカルテ」を拡販すると共に「治療から予防へ」歯科医院の経営を革新していく重要性を訴求、大変多くの方々から「今日聞いたことは知らないことが多かった」「東和デンタルフェアの開催をたくさんの人に教えてあげたい」など喜びと驚きの声をいただきました。今後も5月29日 みずほ証券協同セミナーに合わせて「AI・音声DXフェアin福岡」を同時開催、6月15日 船井総合研究所とオンライン協業セミナー「治療から予防 高収益×安定収益 歯科DXで経営革新」を開催、さらに9月26日～28日に開催される日本デンタルショーでは「Revoriuture(レボリューチャー) 明日(あす)をひらく!」を合言葉に、医院収入の拡大・医療費の抑制・生命維持の根源である「噛む喜び・食べる楽しみ・生きる幸せ」へ貢献することで歯科業界に革命を起こし、歯科医療の未来を明るく照らして参る所存です。

このような取り組みにより、引き続き、2025年9月期は連続最高益更新、及び、連続売上高経常利益率・純利益率更新を目指すと共に、創業50年を迎える2027年9月期において3,000歯科医院を超えるAI・音声シリーズを拡販することで、売上高35億円 経常利益10億円 売上高経常利益率28.5% 純利益7億円 売上高純利益率20.0%を上回る達成を目指して参ります。是非とも、ご期待ください。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年9月30日)	当中間会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,605,117	1,520,653
売掛金	168,646	309,088
商品	183,016	136,905
前払費用	26,336	11,903
未収入金	769	765
預け金	—	281,886
その他	—	188
流動資産合計	1,983,887	2,261,391
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	305,274	296,659
構築物（純額）	1,966	1,875
車両運搬具（純額）	6,303	5,022
工具、器具及び備品（純額）	30,630	38,686
土地	349,929	349,929
有形固定資産合計	694,105	692,174
無形固定資産		
ソフトウェア	126,741	103,723
ソフトウェア仮勘定	80,600	80,600
その他	1,912	1,859
無形固定資産合計	209,254	186,183
投資その他の資産		
投資有価証券	1,388,630	1,307,036
敷金及び保証金	37,011	33,204
繰延税金資産	62,049	40,841
その他	777	743
投資その他の資産合計	1,488,468	1,381,824
固定資産合計	2,391,828	2,260,183
資産合計	4,375,715	4,521,575

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年9月30日)	当中間会計期間 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	24,891	44,526
未払金	119,601	100,494
未払法人税等	136,879	136,446
未払消費税等	46,000	39,063
預り金	4,441	5,880
賞与引当金	12,729	11,602
その他	42,853	6,750
流動負債合計	387,397	344,764
固定負債		
退職給付引当金	54,222	53,372
固定負債合計	54,222	53,372
負債合計	441,619	398,137
純資産の部		
株主資本		
資本金	343,080	343,080
資本剰余金	297,480	297,480
利益剰余金	3,342,235	3,490,354
自己株式	△130	△130
株主資本合計	3,982,665	4,130,783
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△48,569	△7,346
評価・換算差額等合計	△48,569	△7,346
純資産合計	3,934,096	4,123,437
負債純資産合計	4,375,715	4,521,575

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)	当中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)
売上高	1,100,398	1,236,842
売上原価	253,829	272,331
売上総利益	846,569	964,510
販売費及び一般管理費	585,185	619,363
営業利益	261,384	345,147
営業外収益		
受取利息	3	34
有価証券利息	9,952	6,000
受取配当金	5,000	3,400
受取手数料	425	390
投資有価証券売却益	107,995	42,002
その他	5,044	13,498
営業外収益合計	128,421	65,325
経常利益	389,805	410,472
税引前中間純利益	389,805	410,472
法人税、住民税及び事業税	127,046	129,982
法人税等調整額	△2,900	3,152
法人税等合計	124,145	133,135
中間純利益	265,659	277,337

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)	当中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	389,805	410,472
減価償却費	38,056	39,840
受取利息及び受取配当金	△14,956	△9,434
売上債権の増減額 (△は増加)	△201,593	△140,441
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△91,008	32,376
仕入債務の増減額 (△は減少)	60,463	19,635
投資有価証券売却損益 (△は益)	△107,995	△42,002
賞与引当金の増減額 (△は減少)	2,117	△1,127
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	743	△849
未払消費税等の増減額 (△は減少)	21,593	△6,937
その他	△18,723	△49,785
小計	78,502	251,747
利息及び配当金の受取額	15,956	9,434
法人税等の支払額	△47,697	△130,022
営業活動によるキャッシュ・フロー	46,761	131,159
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	310,000	—
有形固定資産の取得による支出	△3,513	△1,104
有価証券の売却及び償還による収入	200,000	—
投資有価証券の取得による支出	△2,502,902	△424,358
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,707,138	—
投資事業組合からの分配による収入	4,449	12,756
投資有価証券の売却による収入	—	607,235
預け金の増減額 (△は増加)	266,118	—
その他	80	891
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,629	195,419
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△111,368	△129,157
財務活動によるキャッシュ・フロー	△111,368	△129,157
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△83,236	197,422
現金及び現金同等物の期首残高	1,092,910	1,605,117
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,009,674	1,802,540

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社は、歯科医院向けシステム事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。